

医療創生大学学則

昭和62年4月1日制定

目次

- 第1章 目的（第1条）
- 第2章 学部、学科及び附属教育研究機関（第2条—第4条）
- 第3章 修業年限及び収容定員（第5条・第6条）
- 第4章 教職員組織（第7条）
- 第5章 大学評議会（第8条・第9条）
- 第6章 教授会等（第10条—第13条の2）
- 第7章 学年、学期及び休業日（第14条—第16条）
- 第8章 授業科目、単位及び単位の授与（第17条—第29条）
- 第9章 履修方法（第30条—第32条）
- 第10章 卒業の要件及び学位の授与（第33条）
- 第11章 入学、編入学、転部、休学、退学及び除籍（第34条—第49条）
- 第12章 学費（第50条—第52条）
- 第13章 賞罰（第53条—第55条）
- 第14章 委託生、科目等履修生、外国人学生及び留学生（第56条—第58条の2）
- 第15章 研究生、国家試験対策生及び聴講生（第59条—第61条）
- 第16章 公開講座（第62条・第63条）
- 第17章 自己点検・評価等（第64条—66条）

附則

第1章 目的

第1条 医療創生大学（以下「本学」という。）は、教育基本法並びに学校教育法の定めるところに従い、学術を中心として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力の展開により人間形成に努め、国家、社会に貢献し得る有能な人材を育成すると共に人類の発展に寄与すること及び科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生を教育の理念・目的とする。

2 本学は、前項に掲げる目的を実現するための教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

第2章 学部、学科及び附属教育研究機関

第2条 本学に次の学部を置く。

- (1) 薬学部
- (2) 看護学部
- (3) 健康医療科学部
- (4) 心理学部
- (5) 国際看護学部

2 本学に大学院を置く。

- (1) 大学院の学則は別に定める。

第3条 本学の学部学科は次のとおりとする。

- (1) 薬学部
 - 薬学科
- (2) 看護学部

看護学科

(3) 健康医療科学部

作業療法学科

理学療法学科

(4) 心理学部

臨床心理学科

(5) 国際看護学部

看護学科

第3条の2 学部学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は別表第1に定める。

第4条 本学に図書館を置く。

2 前項のほか、本学に次の各号の附属教育研究機関を置く。

(1) 心理相談センター

(2) 看護キャリア教育研究センター

3 図書館等附属教育研究機関の管理、運営その他必要な事項は別に定める。

第3章 修業年限及び収容定員

第5条 薬学部の修業年限は6年とする。ただし、在学年数は12年を超えることができない。

2 看護学部の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

3 健康医療科学部の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

4 心理学部の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

5 国際看護学部の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

第6条 収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
薬学部	薬学科	60人	360人
看護学部	看護学科	80人	320人
健康医療科学部	作業療法学科	40人	160人
	理学療法学科	60人	240人
心理学部	臨床心理学科	60人	240人
国際看護学部	看護学科	80人	320人
計		380人	1,640人

第4章 教職員組織

第7条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。ただし、教育研究上の組織編制として適切と認められる場合には、准教授、講師、助教又は助手を置かないことができる。

2 前項のほか、副学長、学部長、技術職員、及び客員教員、その他必要な教職員を置くことができる。

3 前第1項、第2項のほか、本学に学長補佐、学科長、図書館長、附属教育研究機関長、学生部長及び事務局長を置くことができる。

4 前項のほか、学部長補佐、副附属教育研究機関長等を置くことができる。

第5章 大学評議会

第8条 本学に大学評議会を置く。

2 大学評議会は学長の諮問に応じて、第9条に掲げる事項を審議する。

3 大学評議会は次の各号に掲げる大学評議員をもって組織する。

(1) 学長

- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 大学院研究科長
- (5) 図書館長
- (6) 心理相談センター長
- (7) 看護キャリア教育研究センター長
- (8) 学部所属教授各2名

4 学長は、大学評議会を招集し、その議長となる。

5 大学評議会の運営については別に定める。

第9条 大学評議会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育、研究に関する全学的重要事項
- (2) 学則その他重要な規則に関する全学的共通事項
- (3) 学生の厚生補導及びその身分の基準に関する事項
- (4) 全学共通教育科目及び全学的な資格科目に関する事項
- (5) その他必要と認められる事項

第6章 教授会等

第10条 本学各学部に教授会を置く。

2 教授会は、当該学部に所属する専任の教授、准教授、講師、助教をもって組織する。

3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。

4 教授会は、必要があると認めたととき各種の委員会を置くことができる。

5 教授会の運営について必要な事項は、別に定める。

第11条 教授会は、当該学部に関わる次の各号に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が定める事項

2 教授会は、前項に定めるもののほか、当該学部の教育研究に関する事項について審議し、学長に報告するものとする。

3 第1項第3号及び前項に定める事項については、教授会運営細則に定める。

第12条 教授会が必要と認めたととき、教授会構成員の一部をもって組織する代表委員会を置くことができる。

2 前項の場合、代表委員会の議決をもって、教授会の議決とすることができる。

3 代表委員会の審議事項は、教授会が定める。

4 代表委員会の組織、運営については別に定める。

第13条 本学に、大学全体の運営に関する事項を連絡調整するため学部長会を置く。

2 学部長会は、学長、副学長、学部長、大学院研究科長及び事務局長をもって組織する。

3 前項のほか、学長が必要と認めたととき、他の教職員を加えることができる。

4 学部長会の運営について必要な事項は別に定める。

第13条の2 学長が必要と認めたととき、諮問委員会を置くことができる。諮問委員会の組織、運営等について必要な事項は、別に定める。

第7章 学年、学期及び休業日

第14条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第15条 学年を分けて次の二学期とする。

前学期 4月1日から 9月21日まで

後学期 9月22日から 翌年3月31日まで

2 学長は必要により、学期の開始及び終了について、変更することができる。

第16条 休業日は次の各号のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 春期休業日 3月23日から3月31日まで
- (4) 夏期休業日 8月1日から9月21日まで
- (5) 冬期休業日 12月24日から 翌年1月7日まで

2 学長は必要により休業日を変更し、もしくは臨時に休業し、又は休業日に授業をさせることができる。

第8章 授業科目、単位及び単位の授与

第17条 授業科目は全学共通教育科目（初年次教育科目、リテラシー教育科目、外国語教育科目、一般教養科目、健康・スポーツ教育科目）、専門教育科目に区分される。

2 前項の授業科目及び単位数は別表第2、第3、第4、第5、第6及び第7のとおりとする。

第18条 前条の授業科目の履修形態は必修科目、選択科目、自由選択科目及び自由科目とする。

第19条 授業科目の単位数を定めるにあたっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

2 卒業研究の単位は、薬学部は7単位、看護学部は2単位、健康医療科学部は4単位、心理学部は8単位とする。

第20条 卒業研究については、あらかじめ指導教員の指導により題目を決定し、最終学年次の学科指定日までに提出しなければならない。

第21条 履修しようとする授業科目は毎学年次のはじめに届出しなければならない。ただし、自由科目、他学部専門教育科目の履修については届出に際し、許可を得なければならない。

第21条の2 メディアを利用して行う授業は、あらかじめ指定した日時にパソコンその他双方向の通信手段によって行う。

2 前項の授業を実施する授業科目については、別に定める。

第22条 単位の認定は、試験によってこれを行う。ただし、授業科目の種類によっては、他の方法によることができる。

第23条 試験は定期試験及び臨時試験とし、定期試験は学年末又は学期末に行う。

2 試験について必要な事項は別に定める。

第24条 いずれの授業科目でも授業時数の3分の1以上欠席した者は、その授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は正当の理由による長期欠席の場合は考慮されることがある。

第25条 病気その他やむを得ない事情で試験を受けることができなかつた者は、追試験を受けることができる。

2 前項により追試験を願い出る学生は、指定された期間内に追試験申請書及び必要書類を提出し、許可を得なければならない。

3 追試験として認められる事由、必要書類、追試験料及び評価基準は別表第10に定めるとおりとする。

第25条の2 教育上、特に必要と認めた場合には、再試験を受けることができる。

2 再試験について、必要な事項は別表第11に定める。

第26条 授業科目の成績は、S、A、B、C、Fの評価で表わし、S、A、B、Cを合格とし、Fを不合格とする。

2 合格判定科目については、P又はHで表し、Pを合格、Hを不合格とする。

3 第1項の成績の評価基準は、Sは100点から90点、Aは89点から80点、Bは79点から70点、Cは69点から60点とし、Fは次の各号のいずれかに該当するものとする。

(1) 59点以下の場合

(2) 第24条に定める授業時数の3分の1以上欠席した者

4 第2項に定める成績の評価は、学習態度、学習意欲及び提出課題の報告書の提出等の成績を総合的に判断して行う。

5 前各号の規定にかかわらず、他大学等において修得した単位を認定する場合は、Tで表す。

6 成績の評価について必要な事項は、別に定める。

第26条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

3 前項で定める基準については、別に公表する。

第27条 進級するためには、別表第9に定める進級基準を満たさなければならない。

第28条 学長が教育上有益と認めるときは、他の学部が開設する授業科目を履修することができる。

2 前項により修得した単位は、教授会の定めにより、当該単位を卒業に必要な単位として認めることができる。

第29条 学長が教育上有益と認めるときは、国内及び諸外国の他大学等の授業科目を履修させることができる。

2 前項により学修した授業科目について修得した単位は、教授会の議を経て認定することができる。ただし、60単位を超えて認定することはできない。

1 国内及び諸外国の他大学等における授業科目の履修について必要な事項は別に定める。

第9章 履修方法

第30条 全学共通教育科目（初年次教育科目、リテラシー教育科目、外国語教育科目、一般教養科目、健康・スポーツ教育科目）のうち必修科目は指定年次に、選択科目は、第5条に定める在学年数内で履修する。

2 初年次教育科目については、別表第2(1)に開設する授業科目のうち、学部ごとに定められた科目を修得しなければならない。

(1) 薬学部にあつては4単位

(2) 看護学部にあつては2単位

(3) 健康医療科学部にあつては2単位

(4) 心理学部にあつては4単位

(5) 国際看護学部にあつては2単位

3 リテラシー教育科目については、別表第2(2)に開設する科目のうち、次に示す単位数を修得しなければならない。

(1) 薬学部、看護学部、心理学部、国際看護学部にあつては2単位

(2) 健康医療科学部にあつては1単位

4 外国語教育科目については別表第2(3)に開設する科目のうち、次に示す単位数を修得しなければならない。

(1) 薬学部、心理学部にあつては6単位

(2) 看護学部にあつては4単位

(3) 健康医療科学部にあつては2単位

(4) 国際看護学部にあつては6単位及び中国語、韓国語のいずれかの言語科目から2単位

5 一般教養科目については、別表第2(4)に開設する授業科目のうち、次に示す単位数を修得しなければならない。

(1) 薬学部にあつては、人文科学・社会科学・自然科学、外国語教育科目の選択科目から8単位以上

- (2) 看護学部にあつては、人文科学・社会科学・自然科学の選択科目からそれぞれ2単位以上計6単位以上
- (3) 健康医療科学部にあつては、人文科学の必修科目から2単位、自然科学の必修科目から2単位、社会科学の選択科目から2単位以上計6単位以上
- (4) 心理学部にあつては、人文科学から必修科目2単位、選択科目2単位以上計4単位以上、社会科学・自然科学の選択科目からそれぞれ4単位以上計12単位以上
- (5) 国際看護学部にあつては、人文科学・社会科学の選択科目からそれぞれ2単位以上、自然科学の必修科目から1単位、選択科目から2単位以上計7単位以上

6 健康・スポーツ教育科目については、別表第2(5)に開設する授業科目のうち、次に示す単位数を修得しなければならない。

- (1) 薬学部、看護学部、心理学部、国際看護学部にあつては4単位
- (2) 健康医療科学部にあつては3単位

第31条 専門教育科目については、第2項、第3項、第4項、第5項、及び第6項に示す単位数を修得しなければならない。

2 薬学部にあつては、別表第3薬学部開設する授業科目のうち、必修科目及び選択科目を合わせて181単位以上を修得しなければならない。

3 看護学部にあつては、別表第4看護学部開設する授業科目のうち、必修科目及び選択科目を合わせて106単位以上を修得しなければならない。

4 健康医療科学部にあつては、別表第5健康医療科学部に開設する授業科目のうち、必修科目及び選択科目を合わせて110単位以上を修得しなければならない。

5 心理学にあつては、別表第6心理学部に開設する授業科目のうち、必修科目及び選択科目を合わせて96単位以上を修得しなければならない。

6 国際看護学部にあつては、別表第7国際看護学部開設する授業科目のうち、必修科目及び選択科目を合わせて101単位以上を修得しなければならない。

第32条 1年間に履修できる授業科目の単位数は、45単位を超えることができない。

2 学長が特に必要と認めるとき、前項に定める上限を超えて履修単位の登録を認めることができる。

第10章 卒業の要件及び学位の授与

第33条 本学を卒業するには、看護学部、健康医療科学部、心理学部、国際看護学部は4年以上、薬学部は6年以上在学し、第30条から第32条の規定に従い、看護学部、健康医療科学部、心理学部、国際看護学部は124単位以上、薬学部は205単位以上を修得しなければならない。

2 前項の要件を満たした者を卒業と認定し、次の区分により学士の学位を授与する。

薬学部	薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
健康医療科学部	作業療法学科	学士（作業療法学）
	理学療法学科	学士（理学療法学）
心理学部	臨床心理学科	学士（心理学）
国際看護学部	看護学科	学士（看護学）

第11章 入学、編入学、転部、休学、退学及び除籍

第34条 本学の入学の時期は、学期の始めとする。

第35条 本学に入学することのできる者は次の各号の1に該当するものとする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 中等教育学校を卒業した者

- (3) 通常課程による12年の学校教育を修了した者
- (4) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規定による大学入学資格検定に合格した者を含む）
- (9) その他本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第36条 入学は選考の上これを許可する。

- 2 本学へ入学を志願する者は、所定の出願書類を提出し、入学検定料を納めなければならない。
- 3 入学検定料は、別に定める。
- 4 入学者の選考について必要な事項は、別に定める。

第37条 入学の許可を得た者は、保証人を定めた上、所定の書類及び学費を納めなければならない。

第38条 保証人は父母その他本人につき責任を持ち得る者とする。

第39条 他大学等から本学に編入学を希望する者があるときは、学科に欠員ある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。ただし、その時期は学期の始めを原則とする。

- 2 編入学を許可された者の本学入学の諸手続は第38条に準じ、かつ、前学校において履修した単位の修得証明書を提出しなければならない。
- 3 修得単位の認定に関する細則は、別に定める。
- 4 編入学の選考について必要な事項は、別に定める。

第40条 本学に編入学できる者は、次の各号の1に該当する者とする。

- (1) 学士の学位もしくは学士号を有する者
- (2) 短期大学もしくは高等専門学校を卒業した者
- (3) 学校教育法第58条の2に該当する者
- (4) 学校教育法第132条に該当する者
- (5) 大学、短期大学に1年以上在学した者

第41条 編入学した者の本学において在学すべき年数は、前条第1項各号に掲げる大学等における修業年数に相当する年数以下の期間を控除した期間とすることができる。

- 2 その他、編入学について必要な事項は、別に定める。

第42条 本学が教育上有益と認めるとき、入学する前に大学又は短期大学等において修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学において修得した単位として認定することができる。ただし、編入学については、60単位を超えて修得した単位を認定することができる。

2 前項により認定された単位数と第29条第2項により認定された単位数の合計は、60単位を超えてはならない。ただし、編入学については、60単位を超えて修得した単位を認定することができる。

- 3 単位の認定について必要な事項は、別に定める。

第43条 本学在 student で、他学部への転部を志願する者がある時は、関係教授会の議を経て学長がこれを許可することができる。

- 2 転部に関し、必要な事項は別に定める。

第44条 病気その他やむを得ない事由で3ヶ月以上修学できない者は休学することができる。その場合、医師の診断書、又は理由書を添え休学願を保証人連署の上、提出し許可を得なければならない。

- 2 休学は当該年度限りとする。ただし、引き続き休学を要する者は許可を得て、休学を延長することができる。
- 3 休学期間は通算して修業年限を超えることができない。
- 4 休学期間は在学期間に算入しない。
- 5 休学した者は、休学の事由が消滅したとき、又は休学の期間が満了したときは、復学願を保証人連署の上、提出し許可を得て学期のはじめに復学することができる。

第45条 前条第1項により休学を許可された者（以下「休学者」という。）は、別表第8に定める在籍料を納めなければならない。

第46条 病気その他の事由により退学する場合は、その理由を添えて保証人と連署の上、願い出て許可を得なければならない。

第47条 病気のため1週間以上に及び授業を欠席する場合は、医師の診断書を添えて所定の用紙により届け出なければならない。

第48条 次の各号の1に該当する場合は除籍する。

- (1) 在学期間が所定の年数を超える者
- (2) 学費を滞納し催告しても納入しない者
- (3) 死亡の届け出があった者

2 前項2号により除籍された者が復籍を希望する場合は所定の学費を納めて当該年度末までに復籍願を提出し、許可を得なければならない。

第49条 本学を退学した者又は除籍となった者で、退学又は除籍後2年以内に同一学部にも再入学を希望する者は、選考の上、再入学することができる。ただし、第48条第1項第1号により除籍となった者及び第55条により退学した者は、再入学することができない。

2 再入学について必要な事項は、別に定める。

第12章 学費

第50条 学費は、入学金、授業料、施設拡充費、実務実習費とし、別表第8のとおりとする。

2 入学を許可された者は、所定の期日までに入学手続きと同時に前項の学費及び諸会費を納めなければならない。

3 授業料、施設拡充費、実務実習費及び諸会費は所定の期日までに納めなければならない。なお、2期に分けて納めることができる。

4 聴講生は、別表第8による登録料及び聴講料を納めなければならない。

5 研究生は別表第8による研究指導料を納めなければならない。ただし、実験実習の費用を要する場合には別に実費を納めなければならない。

6 科目等履修生は別表第8による登録料及び聴講料を納めなければならない。ただし、実験実習の費用を要する場合には別に実費を納めなければならない。

7 いったん納入した学費は返還しない。ただし、入学の許可を得た者で、所定の期日までに入学手続きの取消しを願い出た者については、入学金を除く学費を返還する。

第51条 学費を延納しなければならない事由があるときは、直ちにその旨を願い出て許可を得なければならない。

第52条 成績優秀にして学費の支弁が困難な者には、学費を貸与することができる。

第13章 賞罰

第53条 品行方正で学業優秀な者、又は他の学生の範とすべき篤行のある者は表彰することができる。

第54条 本学学生にして本分に反した行為があった場合はその軽重に従い譴責、停学又は退学処分に付される。

2 本分に反する行為及びその取扱いについては、別に定める。

第55条 次の各号の1に該当する者は退学させることができる。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- (2) 学業成績劣等で、成業の見込がないと認められる者

- (3) 正当な理由なく出席常でない者
- (4) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- (5) 反社会的行為により、法律上の処分又はそれに準ずる扱いを受けた者

第14章 委託生、科目等履修生、外国人学生及び留学生

第56条 大学における授業科目の1又は複数を履修しようとする者は選考の上、委託生、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 委託生及び科目等履修生に関する必要な事項は、別に定める。

第57条 外国人で入学しようとする者があるときは、選考の上、外国人学生として入学を許可することができる。

第58条 外国人学生に関する必要な事項は別に定める。

第58条の2 留学生の別科に関する必要な事項は別に定める。

第15章 研究生、国家試験対策生及び聴講生

第59条 本学において学位取得を目的とせず、特定主題について研究を志願する者があるときは選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生に関する必要な事項は、別に定める。

第59条の2 本学を卒業した者のうち、国家試験を受験することを目的として学修する意欲がある者があるときは、国家試験対策生として入学を許可することができる。

2 国家試験対策生に関する必要な事項は、別に定める。

第60条 本学において聴講を志願する者があるときは、当該学部の教育及び研究に妨げのない場合に限り、聴講生として入学を許可することができる。

2 聴講生に関する必要な事項は、別に定める。

第61条 聴講生は聴講した授業科目について試験を受けることができる。試験に合格した時は本人の請求により証明書を与える。

第16章 公開講座

第62条 本学に公開講座を開設することができる。

第63条 公開講座に関する規定は、別に定める。

第17章 自己点検・評価等

第64条 本学の教育研究水準の向上を図り、本学設置の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等について自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の自己点検・評価の結果について、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けるものとする。

3 自己点検・評価の実施について必要な事項は、別に定める。

第65条 本学は、本学教員の教育研究活動及び職員の教育研究等支援における資質向上・能力開発に関する授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

2 前項の研修及び研究の実施について必要な事項は、別に定める。

第66条 本学は、教育研究活動等の状況並びに教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報等（以下「教育情報」という。）を公表する。

2 教育情報の公表について必要な事項は、別に定める。

附 則 本学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和63年4月1日から施行する。ただし、昭和62年度入学生については、別表第11（学費）に限り従前の例による。

附 則

本学則は、平成元年4月1日から施行する。ただし、昭和63年度以前の入学生については、別表第11（学費）に限り従前の例による。

附 則

本学則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、平成元年度以前の入学生については、別表第11（学費）に限り従前の例による。

附 則

1 本学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、平成2年度以前の入学生については、別表第2（一般教育科目等授業科目及び単位数）から別表第11（学費）に限り従前の例による。

2 第5条の規定にかかわらず、入学定員は、平成3年度より平成11年度までの間は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
理工学部	基礎理学科	60人
	物性学科	60人
	電子工学科	120人
	機械工学科	120人
人文学部	日本文学科	90人
	英米文学科	90人
	社会学科	90人
合計		630人

3 第25条第1項の人文学部社会学科の高等学校教諭1種免許状「地理歴史」及び「公民」の教科に関して、及び別表第6（教職課程授業科目及び単位数）については、平成2年度人文学部社会学科入学生に対しても適用するものとする。

附 則

本学則は、平成4年4月1日から施行する。ただし、平成3年度以前の入学生については、別表第2（一般教育科目等授業科目及び単位数）から別表第11（学費）に限り従前の例による。また学位の授与については平成3年度卒業生に対しても適用する。

附 則

本学則は、平成8年4月1日から施行する。ただし、平成7年度以前の入学生については、別表第2（一般教育科目等授業科目及び単位数）から別表第11（学費）に限り従前の例による。

附 則

本学則は、平成9年4月1日から施行する。ただし、平成8年度以前の入学生については、第8章（授業科目及び単位）、第9章（履修方法）及び別表第11（学費）に限り従前の例による。

附 則

本学則は、平成10年4月1日から施行する。ただし、平成9年度以前の入学生については別表第11（学費）に限り従前の例による。

附 則

1 本学則は、平成12年4月1日から施行する。

2 第6条の規定にかかわらず、入学定員は平成12年度より平成16年度までの間は次のとおりとする。

		年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
学部学科							
理工学部	基礎理学科		60人	60人	60人	60人	60人

	物性学科	50人	40人	40人	40人	40人
	電子工学科	119人	118人	112人	106人	100人
	機械工学科	119人	118人	112人	106人	100人
人文学部	日本文学科	87人	82人	79人	76人	73人
	英米文学科	84人	80人	78人	75人	72人
	社会学科	90人	90人	86人	83人	80人
合計		609人	588人	567人	546人	525人

附 則

1 本学則は、平成13年4月1日から施行する。ただし、第3条は、平成13年度入学生より適用する。

2 [基礎理学科、物性学科、電子工学科、日本文学科、英米文学科、社会学科の存続に関する経過処置]

基礎理学科、物性学科、電子工学科、日本文学科、英米文学科、社会学科は、学則第3条の規定にかかわらず平成12年3月31日に当該学科に在籍する者が当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

3 第6条及び平成12年附則第2項の規定にかかわらず、入学定員は平成13年度より平成15年度までの間は次のとおりとする。

年度		平成13年度	平成14年度	平成15年度
学部学科				
理工学部	環境理学科	105人	98人	94人
	電子情報学科	98人	92人	86人
	機械工学科	97人	91人	85人
人文学部	言語文化学科	126人	125人	123人
	現代社会学科	87人	86人	83人
	心理学科	75人	75人	75人
合計		588人	567人	546人

附 則

本学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成16年4月1日から施行する。ただし、第43条の復学の時期については平成15年度以前の入学生についても適用する。また、別表第11学費の入学検定料は平成15年4月1日から適用する。

附 則

1 本学則は、平成17年4月1日から施行する。ただし、平成16年度以前の入学生については従前の例による。

2 [環境理学科、電子情報学科、機械工学科、言語文化学科の存続に関する経過処置]

環境理学科、電子情報学科、機械工学科、言語文化学科は、学則第3条の規定にかかわらず平成17年3月31日に当該学科に在籍する者が当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

本学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。ただし、科学技術学部生命環境学科の選択科目「自然体験プログラム」追加は、平成 17 年度以降入学者にも適用する。

附 則

本学則は、平成 20 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 本学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 21 年度以前の入学生については従前の例による。
- 2 [生命環境学科、電子情報学科、システムデザイン工学科の存続に関する経過処置]

生命環境学科、電子情報学科、システムデザイン工学科は、学則第 3 条の規程にかかわらず平成 22 年 3 月 31 日に当該学科に在籍する者が当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

本学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 22 年度以前の入学生については、第 32 条に限り従前の例による。

附 則

本学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 21 条第 1 項第 3 号、第 24 条第 1 項第 3 号及び別表 5 については、平成 25 年度入学生から適用する。

附 則

本学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 26 年度以前の入学生については従前の例による。

- 2 [科学技術学部科学技術学科の存続に関する経過措置]

科学技術学部科学技術学科は、学則第 3 条の規定にかかわらず平成 27 年 3 月 31 日に当該学部学科に在籍する者が当該学部学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 3 [人文学部表現文化学科、現代社会学科、心理学科の存続に関する経過措置]

人文学部表現文化学科、現代社会学科、心理学科は、学則第 3 条の規定にかかわらず平成 27 年 3 月 31 日に当該学部学科に在籍する者が当該学部学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 4 第 6 条の規定にかかわらず、平成 23 年度から平成 26 年度までの入学生については、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
科学技術学部	科学技術学科	130 人	520 人
人文学部	表現文化学科	90 人	360 人
	現代社会学科	95 人	380 人
	心理学科	90 人	360 人
薬学部	薬学科	90 人	540 人
計		495 人	2,160 人

附 則

本学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 28 年度以前の入学生については従前の例による。

附 則

本学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 本学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 30 年度以前の入学生については従前の例による。

2 [教養学部 地域教養学科の存続に関する経過措置]

教養学部地域教養学科は、学則第 3 条の規定にかかわらず平成 31 年 3 月 31 日に当該学部学科に在籍する者が当該学部学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする、

3 第 6 条の規定にかかわらず、平成 28 年度から平成 30 年度までの入学生については、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
教養学部	地域教養学科	120 人	480 人
薬学部	薬学科	90 人	540 人
看護学部	看護学科	80 人	320 人
計		290 人	1,340 人

4 大学の名称変更については、平成 31 年 4 月 1 日以降に在籍するすべての学生に適用する。

5 別表第 7 進級基準については、平成 30 年度以前の入学生にも適用し、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

6 留学生別科については、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 31 年度以前の入学生については従前の例による。

2 第 6 条の規定にかかわらず、平成 31 年度の入学生については、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
薬学部	薬学科	90 人	540 人
看護学部	看護学科	80 人	320 人
健康医療科学部	作業療法学科	40 人	160 人
	理学療法学科	60 人	240 人
計		270 人	1,260 人

附 則

本学則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。ただし、令和 2 年度以前の入学生については従前の例による。

2 第 6 条の規定にかかわらず、令和 2 年度の入学生については、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
薬学部	薬学科	90 人	540 人
看護学部	看護学科	80 人	320 人
健康医療科学部	作業療法学科	40 人	160 人
	理学療法学科	60 人	240 人
心理学部	臨床心理学科	60 人	240 人
計		330 人	1,500 人

附 則

本学則は、令和 3 年 12 月 1 日から施行する。

附 則

1 本学則は、令和4年4月1日から施行する。ただし、令和3年度以前の薬学部、看護学部、及び国際看護学部の入学生の教育課程については、従前の例による。

2 第6条の規定にかかわらず、令和3年度の入学生については、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
薬学部	薬学科	90人	540人
看護学部	看護学科	80人	320人
健康医療科学部	作業療法学科	40人	160人
	理学療法学科	60人	240人
心理学部	臨床心理学科	60人	240人
国際看護学部	看護学科	80人	320人
計		410人	1,820人

3 心理学部の学費の変更については、令和4年4月1日以降に在籍する心理学部の学生に適用する。

附 則

1 本学則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、令和4年度以前の健康医療科学部の入学生の教育課程については、従前の例による。

附 則

1 本学則は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和5年度以前の薬学部、看護学部、心理学部の入学生の教育課程については、従前の例による。

別表第1 学部学科の人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的

(1) 薬学部

学部	<p>薬学部は、本学の教育理念・目的を踏まえて、「一人ひとりの学生を大切にす手塩にかけける教育を行い、従来の薬剤師としての職能に加えて、チーム医療の中で貢献できる、問題発見能力と問題解決能力を備えた薬剤師を育成し、地域社会に有為な人材を送り出すこと」を理念とし、以下の様に教育上の目的、研究上の目的を定めます。</p> <p>教育上の目的：豊かな人間性を有し、率先して地域の人々の健康の増進・向上に寄与することのできる、研究マインドと確かな知識に裏打ちされた、自律・自立した薬剤師を育成すること</p> <p>研究上の目的：臨床的な問題解決から基礎研究まで、多様な視点での研究活動を行い、科学と社会に貢献すること</p>
学科	<p>薬学部薬学科は、薬学部薬学科の教育研究上の目的に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師として関わる全ての状況で求められるプロフェッショナルリズムを継続的に考えていく姿勢と、総合的に患者・生活者をみる心構えを身につけている。 2. 薬学的視点から医療分野における課題を的確に見出し解決するため、研究マインドと薬学的知識・技能を修得し、薬学の発展に貢献する意欲をもっている。 3. 多職種連携を通じた患者・生活者指向の医療を実施するために、多様な専門職を理解し円滑なコミュニケーションをとることができる。 4. 社会における薬剤師の責務を理解し、医療・福祉・公衆衛生を担うと共に、適切な薬物治療や薬学的管理を実践できる基本的能力を身につけている。 5. 高度化する情報・科学技術に適切に対応しつつ医療・福祉・公衆衛生の向上を視野に入れ、自他ともに研鑽しつづける気概をもっている。

(2) 看護学部

学部	<p>看護学部は、本学の教育理念・目的を踏まえて、幅広い教養と豊かな人間性を養い、看護専門職として必要とされる基本的な知識・技能・態度に基づいた看護実践能力を修得するとともに、将来にわたり看護の向上に資するための能力を養い（すなわちESD: Education for Sustainable Development を実践し）、人々の健康の保持増進に寄与することのできる人材を育成することを教育研究上の目的とする。</p>
学科	<p>看護学部の教育目的を達成するために以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。 2. EBN (Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護) に基づき、自律的に看護を実践することができる。 3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。 4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。 5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。

(3) 健康医療科学部

学部	<p>健康医療科学部は、本学の教育理念・目的を踏まえて、地域で生活するあらゆる世代の人々がその人らしく、健康を維持・増進しながら、必要に応じて効果的な医療サービスを受け、可能な限り自立した生活ができるよう、健康から疾病の回復に至るまで連続的な視点で捉え、科学的根拠に裏づけされた専門的知識・技術を備えた専門職者 (Evidence-Based Practitioner) を育成することを教育研究上の目的とする。さらに、高齢化が進む地域医療等の現場において、住民の真の声に耳を傾けきめ細かな地域ニーズを調査できる人材、また、課題解決に向けた具体的な計画を立案し、着実に実施できる人材を育成する。</p> <p>健康医療科学部の学位授与の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進および疾病からの回復の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。 2. 地域の健康・医療課題を的確に把握し、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。 3. 健康・医療に関わる課題を解決するために科学的思考が展開できる。 4. 健康・医療に関わる専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的かつ能動的な学修ができる。
----	---

<p>学科</p>	<p>作業療法学科</p> <p>健康医療科学部作業療法学科の教育目的を達成するために以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。 2. 地域に住む孤立しがちな人びとや、心身および生活上の障害を抱えた人びとの個別な健康・医療課題を的確に把握し、子どもから高齢者に至るまでその人らしく生活できるように、その生活支援や就労支援を行うことで、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。 3. 健康・医療に関わる課題を解決するために、作業療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた作業療法技術を駆使して生活能力の再獲得への支援ができる。 4. 健康・医療に関わる作業療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的かつ能動的な学修ができる。
<p>学科</p>	<p>理学療法学科</p> <p>健康医療科学部理学療法学科の教育目的を達成するために以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。 2. 地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。 3. 健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。 4. 健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的かつ能動的な学修ができる。

(4)心理学部

<p>学部</p>	<p>心理学の専門性を備えて社会の中で自らの心の健康のみならず、対人関係の調整やストレスへの対処などに関する専門的な知識を持ち、人間関係の調整に役立つスキルを備えた社会人を育成する。</p> <p>そのため、「①現代社会の諸問題に対し、心理学や実証科学的な観点に立ち、適切な情報処理と問題解決ができるための知識・技能を修得する。②多様な社会生活において、自分や周囲の人たちの心の健康を維持・促進するために、柔軟でバランスのとれた人間環境理解とそれに基づいた対応ができるための知識・技能・態度を修得する。③卒業後に公認心理師の受験資格取得をめざし、保健医療や福祉、教育、その他の分野において「心の専門家」として活躍するための基礎的な心理学の知識・技能を修得する。」ことを教育研究上の目的とする。</p> <p>心理学部の学位授与の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変化する社会に対応し、周囲の人たちと協働しながら、生涯にわたり主体的に学び続ける意欲・態度を修得している。 2. 社会人として、自分や周囲の人たちの心の健康に関する心理学の基礎的な知識・技能を修得している。 3. 社会人として、多様な人間関係を理解し、対応するための心理学の基礎的な知識・技能を修得している。 4. 実証科学としての心理学の観点に立ち、適切に情報を処理し、現代社会の諸問題を解決するための基礎的な思考力・判断力・表現力を修得している。
<p>学科</p>	<p>臨床心理学科では、基礎心理学と臨床心理学をバランスよく学び、現代社会における多様なニーズに応え、地域社会や職場、家庭におけるさまざまな問題に心理学の観点からアプローチできる人材を養成する。</p> <p>そのため、「①人の生涯発達や認知機能、社会的行動について基本的な知識を身につける。②対人支援に関する知識やスキルと、メンタルヘルスに関する基礎的な知識を統合的に身につける。③円滑な対人関係を維持するための基本的な能力を身につける。④公認心理師や臨床心理士を目指す学生は、大学卒業時点では、受験資格を取得できないため、受験資格取得につながる基礎的な知識・技能・態度を身につける。」ことを学科の教育研究上の目的とする。</p> <p>心理学部臨床心理学科の教育目的を達成するために以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>心理学部の学位授与の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変化する社会に対応し、周囲の人たちと協働しながら、生涯にわたり主体的に学び続ける意欲・態度を修得している。 2. 社会人として、自分や周囲の人たちの心の健康に関する心理学の基礎的な知識・技能を修得している。 3. 社会人として、多様な人間関係を理解し、対応するための心理学の基礎的な知識・技能を修得している。 4. 実証科学としての心理学の観点に立ち、適切に情報を処理し、現代社会の諸問題を解決するための基礎的な思考力・判断力・表現力を修得している。

(5) 国際看護学部

学部	<p>国際看護学部では、本学の教育理念・目的を踏まえ、多文化共生社会となっていく社会構造の変化に対応するため、グローバルな視点をもった「社会に有為な保健医療人材の養成」を行うことを目指している。</p> <p>グローバル化した社会においては、出身国が異なる人々に対し、その人の生まれ育った歴史を含めた全人的な存在そのものを受け入れながら、より質の高い看護ケアを提供することが求められる。そのためには、世界標準言語である英語を駆使して看護ケアを実施できることはもとより、異文化理解を含む、広い視野を持ち、慣習の違いを超えた人間的な関わりとコミュニケーション技術、さらには高度な情報処理能力に基づく科学的な考え方と研究する力を持った看護専門職が要求される。国際看護学部では、このような看護の新しい役割を担えるような人材を育成する。</p>
学科	<p>看護学科では、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 多文化社会に対応できる柔軟な能力、および広い視野と高い倫理観を持ち、グローバル化する次代の医療を担える看護能力を身につけている。2. 科学的な根拠（エビデンス）に基づき、必要な看護ケアを適切に提供できる専門的知識と専門技術を身につけている。3. 情報を正しく捉えて分析し、科学的に考えることのできる研究心を身につけている。4. 優れた健康科学や看護ケアを世界に発信できる質の高い看護専門性を身につけている。5. 看護専門職として生涯にわたり持続可能な主体的学修心を身につけている。

別表第2 全学共通教育科目及び単位数

(1) 初年次教育科目

授業科目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	備考
イ グ ナ イ ト 教 育 1 A	2		(薬学部)
イ グ ナ イ ト 教 育 1 B	2		(薬学部)
フ レ ッ シ ャ ー ズ セ ミ ナ ー	2		(看護学部、健康医療科学部、国際看護学部)
フ レ ッ シ ャ ー ズ セ ミ ナ ー 1	2		(心理学部)
フ レ ッ シ ャ ー ズ セ ミ ナ ー 2	2		(心理学部)
計	10	0	

(2) リテラシー教育科目

授業科目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	備考
日 本 語 リ テ ラ シ ー	1		
コ ン ピ ュ ー タ リ テ ラ シ ー ※ 1	1		※1 健康医療科学部は選択
計	2	0	

(3) 外国語教育科目

授業科目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	備考
英 語 A	1		
英 語 A	2		
英 語 B 1 ※	1		※1健康医療科学部は選択
英 語 B 2 ※	1		※2看護学部、健康医療科学部は選択
英 語 C 1 ※	2		2年次から4年次に履修
英 語 C 2 ※	2		2年次から4年次に履修
中 国 語 1 ※	3	1	※3薬学部・看護学部・国際看護学部・心理学部のみ開講
中 国 語 2 ※	3	1	2年次から4年次に履修
韓 国 語 1	1	1	2年次から4年次に履修
韓 国 語 2	2	1	2年次から4年次に履修
計	6	4	

外国人留学生においては、英語の代わりに単位数分の日本語を修得しなければならない。

また、国際看護学部においては、中国語、もしくは韓国語のいずれかの言語科目から2単位以上修得すること。

(4)一般教養科目

	授業科目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	備考
人文科学分野	哲学の世界 こ と ば の 科 学		2 2	※1「世界の歴史と文化」は、薬学部・看護学部・国際看護学部・心理学部のみ開講。国際看護学部においては、当該科目を「社会科学分野」とする。 ※2「芸術の世界」「日本の歴史と文化」は薬学部・看護学部・心理学部のみ開講 ※3 心理学部は必修
	心理学概論 ※ 3		2	
	世界の歴史と文化 ※ 1		2	
	倫理学の世界 2		2	
	芸術の世界 ※ 2		2	
	文学の世界 2		2	
日本の歴史と文化 ※ 2		2		
社会科学分野	法学入門 ※ 2		2	※1「経済学入門」「経営学入門」「ジェンダー論」は薬学部・看護学部・心理学部のみ開講 ※2 国際看護学部は「法学入門」「社会学入門」「世界の歴史と文化」を開講。「世界の歴史と文化」は国際看護学部のみ「社会科学分野」として位置付ける。
	経済学入門 ※ 1		2	
	社会学入門 ※ 2		2	
	災害からの復興 2		2	
	暮らしのなかの憲法 2		2	
	経営学入門 ※ 1		2	
	ジェンダー論 ※ 1		2	
政治学入門 (世界の歴史と文化) ※ 2		2 (2)		
自然科学分野	自然科学のあゆみ ※ 2		2	※1「地球環境の科学」は薬学部・看護学部・心理学部のみ開講 ※2 国際看護学部は「自然科学のあゆみ」「統計のしくみ」「生命の科学」「情報演習」のみ開講。 ※3 国際看護学部のみ開講。
	健康と薬 2		2	
	統計のしくみ ※ 2		2	
	生命の科学 ※ 2		2	
	食品の科学 2		2	
地球環境の科学 ※ 1		2		
情報演習 ※ 3	2			
	計	2	44	

(5)健康・スポーツ教育科目

	授業科目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	備考
健康の科学		2		※健康医療科学部は1科目選択必修
健康・スポーツ 1 ※		1		
健康・スポーツ 2 ※		1		
	計	4	0	

別表第3 薬学部専門科目及び単位数

薬学科

	授業科目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	自由科目 の単位数	備考	
専門教育科目	イグナイト教育	イグナイト教育 2A	2			
		イグナイト教育 2B	2			
		イグナイト教育 3A	2			
		イグナイト教育 3B	2			
		イグナイト教育 4	2			
		小計(5科目)	10	0	0	
	数学・英語・実習入門	数学入門		1		
		数学	2			
		数学基礎演習 1		1		
		数学基礎演習 2		1		
		DX ビッグデータ活用	1			
		臨床統計学	1			
		薬学英語入門	1			
		薬学英語	1			
		自然科学実習入門	2			
	小計(9科目)	8	3	0		
物理系	物理学	2				
	物理学演習 1	1				
	物理学演習 2	1				
	物理系実習	2				
	物理化学 1	1				
	物理化学 2	1				
	物理化学 3	1				
	薬品分析学基礎	1				
	薬品分析学 1	1				
	薬品分析学 2	1				
	放射薬品学	1				
	臨床分析化学	1				
	物理系薬学特論		0.5			
	小計(13科目)	14	0.5	0		
化学系	化学 1	2				
	化学 2	2				
	化学 3	1.5				
	化学演習 1	1				
	化学演習 2	1				
	化学系実習	2				
	スペクトル解析	1.5				
	化学結合論		1			
	無機化学	1				
	有機化学 1	1				
	有機化学 2	1				
	有機化学 3	1				
有機化学 4	1					

	授 業 科 目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	自由科目 の単位数	備考	
	生物有機化学	1				
	医薬品化学 1	1				
	医薬品化学 2	1				
	薬の基原	1				
	生薬学	1				
	植物薬品化学		1			
	化学系薬学特論		0.5			
	小計(20科目)	21	2.5	0		
専 門 教 育 科 目	生 物 系	生物学 1	1			
		生物学 2	1			
		生物学演習 1	1			
		生物学演習 2	1			
		生物系実習	2			
		機能形態学 1	1			
		機能形態学 2	1			
		機能形態学 3	1			
		生化学 1	1			
		生化学 2	1			
		細胞分子生物学	1			
		分子生理学	1			
		微生物学	1			
		免疫学	1			
		生物系薬学特論		0.5		
	小計(15科目)	15	0.5	0		
	医 療 系	薬理学 1	1			
		薬理学 2	1			
		薬理学 3	1			
		薬理学 4	1			
化学療法学 1		1				
化学療法学 2		1				
漢方医薬学		1				
漢方治療学			1			
病態・臨床検査学		1				
薬物治療学 1		1				
臨床病態治療学 1		1				
薬物治療学 2		1				
臨床病態治療学 2		1				
薬物治療学 3		1				
臨床病態治療学 3		1				
薬物治療学 4	1					
治療系実習	2					
医療系薬学特論		0.5				
小計(18科目)	17	1.5	0			

		授 業 科 目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	自由科目 の単位数	備考
専門教育科目	衛生系	衛生化学	1			
		公衆衛生学	1			
		環境衛生学	1			
		衛生系実習	2			
		毒性学	1			
		食品と健康		0.5		
		応用衛生薬学		1		
		衛生系薬学特論		0.5		
		小計(8科目)	6	2	0	
	薬剤系	日本薬局方	1			
		生物薬剤学	1			
		物理薬剤学	1			
		臨床薬物動態学	1			
		製剤学	1			
		調剤系実習	3			
		医薬品開発概論	1			
		生物構造薬学		0.5		
		化粧品学		0.5		
		薬剤系薬学特論		0.5		
			小計(10科目)	9	1.5	0
社会系	地域・災害医療学			1		
	地域にでてみよう			1		
	薬事関係法規	1				
	薬事関係制度	1				
	MR 実践論			1		
	医療心理学	0.5				
	インターンシップ			1		
	医療倫理学	1				
	社会系薬学特論			0.5		
	小計(9科目)	3.5	4.5	0		
ファーマドрил	ファーマドрил(2年)	4				
	ファーマドрил(3年)	3				
	ファーマドрил(4年)	1.5				
	ファーマドрил(5年)			2		
	ファーマドрилファイナル	6				
	小計(5科目)	14.5	2	0		
臨床系	向精神薬論			1		
	医薬品情報学	1				
	救急・中毒学			1		
	地域・在宅医療	1				
	看護学			0.5		
	終末期医療			0.5		
	臨床栄養学	1				
	臨床薬学1	1				
	臨床薬学2	1				

	授 業 科 目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	自由科目 の単位数	備考
	クリニカルケーススタディ 臨床系薬学特論		1 0.5		
	小計(11科目)	5	4.5	0	
実務実習	プレ実務実習	5			
	実務実習(病院)	10			
	実務実習(薬局)	10			
	アドバンスト実務実習	2			
	小計(4科目)	27	0	0	
卒業研究	卒業研究(4年)	1			
	卒業研究(5年)	3			
	卒業研究(6年)	3			
	薬学コロキウム(4年)	2			
	薬学コロキウム(5年)	2			
	薬学コロキウム(6年)	2			
	研究マインド醸成1		2		
	研究マインド醸成2		2		
研究マインド醸成3		2			
	小計(9科目)	13	6	0	
合計(136科目)		163	28.5	0	

別表第4 看護学部専門科目及び単位数

看護学科

	授 業 科 目	必 修 科 目 の 単 位 数	選 択 科 目 の 単 位 数	自 由 科 目 の 単 位 数	備 考	
専門基礎分野	人 体 の 構 造 と 機 能 1	2				
	人 体 の 構 造 と 機 能 2	2				
	生 活 化 学	2				
	人 間 栄 養 学	2				
	微 生 物 学	2				
	薬 理 学	2				
	臨 床 心 理 学	1				
	疾 病 治 療 論 1	2				
	疾 病 治 療 論 2	2				
	疾 病 治 療 論 3	1				
	放 射 線 と 環 境	1				
	放 射 線 と 人 体	1				
	社 会 福 祉 学	2				
	公 衆 衛 生 学	2				
	保 健 統 計 学		2			
	疫 病 学		2			
	保 健 医 療 福 祉 行 政 論		2			
	I C T 基 礎 実 習				1	
小計(18科目)		24	6	1		
専門教育科目	基礎看護学	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	2			
		看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	2			
		看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	2			
		看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	2			
		看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	2			
		看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	2			
		看護実践基盤学実習(基礎)1	1			
		看護実践基盤学実習(基礎)2	2			
	成人看護学	生涯発達看護学(成人)	1			
		健康生活看護学(成人概論)	1			
		健康生活看護学(成人・急性期)	1			
		健康生活看護学(成人・周手術期)	1			
		健康生活看護学(成人・慢性期)	1			
		健康生活看護学(成人・回復終末期)	1			
		健康生活看護学実習(成人)	6			
	老年看護学	生涯発達看護学(老年)	1			
		健康生活看護学(老年概論)	1			
		健康生活看護学(老年援助)	2			
		健康生活看護学実習(老年)1	1			
		健康生活看護学実習(老年)2	3			
	母性看護学	生涯発達看護学(母性)	1			
		健康生活看護学(母性概論)	1			
		健康生活看護学(母性援助)	2			
		健康生活看護学実習(母性)	2			
	小児看護学	生涯発達看護学(小児)	1			
		健康生活看護学(小児概論)	1			
		健康生活看護学(小児援助)	2			
		健康生活看護学実習(小児)	2			
	精神看護学	健康生活看護学(精神概論)1	1			
		健康生活看護学(精神概論)2	1			
		健康生活看護学(精神援助)	2			
		健康生活看護学実習(精神)	2			
小計(32科目)		53	0	0		

		授 業 科 目		必 修 科 目 の 単 位 数	選 択 科 目 の 単 位 数	自 由 科 目 の 単 位 数	備 考	
専 門 教 育 科 目	在宅看護論	地 域 養 生 看 護 学 (在 宅 概 論)		2				
		地 域 養 生 看 護 学 (地 域 ケ ア シ ス テ ム 論)		2				
		地 域 養 生 看 護 学 (在 宅 援 助)		2				
		地 域 養 生 看 護 学 実 習 (在 宅)		2				
	統 合 分 野 看護の統合と実践	看 護 倫 理		1				
		チ ャーム 医 療		1				
		看 護 マ ネ ジ メ ン ト		1				
		医 療 安 全		1				
		国 際 看 護 活 動 論		1				
		放 射 線 と 健 康 支 援		1				
		災 害 看 護		1				
		災 害 看 護 演 習		1				
		訪 問 看 護 マ ネ ジ メ ン ト		1				
		リ ハ ビ リ テーション 看 護 論				1		
コ ン サ ル テーション 論				1				
緩 和 ケ ア				1				
ク リ ティ カ ル ケ ア				1				
看 護 学 シ ミ ュ レーション		1						
看 護 学 統 合 実 習		2						
看 護 援 助 技 術 レ フ ァ レ ン ス		2						
看 護 研 究		1						
卒 業 研 究		2						
小 計 (22 科 目)				25	4	0		
保 健 師 養 成 課 程 科 目	公 衆 衛 生 看 護 学 概 論					2		
	公 衆 衛 生 看 護 方 法 論 1					2		
	公 衆 衛 生 看 護 方 法 論 2					2		
	公 衆 衛 生 看 護 活 動 論					2		
	学 校 保 健 ・ 産 業 保 健					2		
	公 衆 衛 生 看 護 管 理 論					2		
	公 衆 衛 生 看 護 学 実 習 A					2		
	公 衆 衛 生 看 護 学 実 習 B					3		
小 計 (8 科 目)				0	0	17		
合 計 (80 科 目)				102	10	18		

実習の履修要件

	科 目 名	単 位 数	開 講 時 期	実 習 の 履 修 要 件	
				単 位 修 得 済 み で あ る こ と	定 期 試 験 受 験 資 格 を 得 て い る 状 態 で あ る こ と
1	看 護 実 践 基 盤 学 実 習 (基 礎) 1	1	1 後	・ 看 護 実 践 基 盤 学 I (看 護 学 原 論)	・ 看 護 実 践 基 盤 学 II (コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン) ・ 看 護 実 践 基 盤 学 III (ア セ ス メ ン ト) ・ 看 護 実 践 基 盤 学 IV (生 活 援 助 技 術)
2	看 護 実 践 基 盤 学 実 習 (基 礎) 2	2	2 前	・ 看 護 実 践 基 盤 学 II (コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン) ・ 看 護 実 践 基 盤 学 III (ア セ	・ 看 護 実 践 基 盤 学 V (診 療 補 助 技 術)

				<ul style="list-style-type: none"> ・ スメント) ・ 看護実践基盤学IV (生活援助技術) ・ 看護実践基盤学実習 (基礎) 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護実践基盤学VI (看護過程)
3	健康生活看護学実習 (老年) 1	1	2 後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯発達看護学 (老年) ・ 健康生活看護学 (老年概論) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康生活看護学 (老年援助)
4	健康生活看護学実習 (精神)	2	3 通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康生活看護学 (精神概論) 1 ・ 健康生活看護学 (精神概論) 2 ・ 健康生活看護学 (精神援助) ・ 看護実践基盤学実習 (基礎) 2 	
5	健康生活看護学実習 (成人)	6	3 通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯発達看護学 (成人) ・ 看護実践基盤学実習 (基礎) 2 ・ 健康生活看護学 (成人概論) ・ 健康生活看護学 (成人・急性期) ・ 健康生活看護学 (成人・慢性期) ・ 健康生活看護学 (成人・周手術期) ・ 健康生活看護学 (成人・回復終末期) 	
6	健康生活看護学実習 (母性)	2	3 通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯発達看護学 (母性) ・ 健康生活看護学 (母性概論) ・ 健康生活看護学 (母性援助) ・ 看護実践基盤学実習 (基礎) 2 	
7	健康生活看護学実習 (小児)	2	3 通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯発達看護学 (小児) ・ 健康生活看護学 (小児概論) ・ 健康生活看護学 (小児援助) 	

				助) ・看護実践基盤学実習 (基礎) 2	
8	健康生活看護学実習 (老年) 2	3	3 通	・健康生活看護学 (老年援助) ・看護実践基盤学実習 (基礎) 2 ・健康生活看護学実習 (老年) 1	
9	地域養生看護学実習 (在宅)	2	3 通	・地域養生看護学 (在宅概論) ・地域養生看護学 (在宅援助) ・地域養生看護学 (地域ケアシステム論) ・看護実践基盤学実習 (基礎) 2	
10	看護学統合実習	2	4 前	・3年次までの臨地実習科目全て ・看護マネジメント	
11	公衆衛生看護学実習 A	2	4 前	・3年次までの必修科目全て ・保健統計学 ・疫学・保健医療福祉行政論 ・公衆衛生看護学概論 ・学校保健・産業保健	・公衆衛生看護方法論 1 ・公衆衛生看護方法論 2 ・公衆衛生看護活動論
12	公衆衛生看護学実習 B	3	4 前	・3年次までの必修科目全て ・保健統計学 ・疫学・保健医療福祉行政論 ・公衆衛生看護学概論 ・学校保健・産業保健	・公衆衛生看護方法論 1 ・公衆衛生看護方法論 2 ・公衆衛生看護活動論

別表第5 健康医療科学部専門科目及び単位数

作業療法学科

		授 業 科 目	必 修 科 目 の 単 位 数	選 択 科 目 の 単 位 数	自 由 科 目 の 単 位 数	備 考		
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達 人体の構造と機能及び心身の発達 人体の構造と機能及び心身の発達 人体の構造と機能及び心身の発達 人体の構造と機能及び心身の発達 人体の構造と機能及び心身の発達 人体の構造と機能及び心身の発達 人体の構造と機能及び心身の発達 人体の構造と機能及び心身の発達 人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造 I 2 人体の構造 II 2 人体の構造 III 2 人体の構造 IV 2 人体の構造演習 1 人体の機能 I 2 人体の機能 II 2 人体の機能演習 1 運動学演習 2 運動学演習 1					
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学 2 薬理学 2 救急処置学 2 神経内科学 2 整形外科学 2 小児科医学 2 臨床心理学 2 内科学 2 公衆衛生学 2		2			
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	社会学概論 2 福祉医療演習 1 リハビリテーション概論 2					
		小計 (23科目)	38	4				
		専門科目	基礎作業療法学 基礎作業療法学 基礎作業療法学 基礎作業療法学 基礎作業療法学 基礎作業療法学 基礎作業療法学 基礎作業療法学 基礎作業療法学 基礎作業療法学	作業療法基礎理論 2 リスク管理論 1 科学的根拠に基づく実践 2 生体統計学 2 基礎作業学演習 I 1 卒業研究 I 2 卒業研究 II 2				
			作業療法管理学 作業療法管理学 作業療法管理学 作業療法管理学 作業療法管理学 作業療法管理学 作業療法管理学 作業療法管理学 作業療法管理学 作業療法管理学	作業療法学概論 1 臨床教育と管理 2 作業療法教育 2 作業療法教育学と生涯学習 2		2		
			作業療法評価学 作業療法評価学 作業療法評価学 作業療法評価学 作業療法評価学 作業療法評価学 作業療法評価学 作業療法評価学 作業療法評価学 作業療法評価学	作業評価学演習 1 検査測定法演習 1 身体機能評価学演習 1 精神機能評価学演習 2 精神機能評価学演習 1 発達機能評価学演習 1				

		授 業 科 目	必 修 科 目 の 単 位 数	選 択 科 目 の 単 位 数	自 由 科 目 の 単 位 数	備 考
専 門 教 育 科 目	専 門 科 目	作 業 療 法 治 療 学	日 常 生 活 活 動 学	2	1	
			日 常 生 活 活 動 学 演 習	1		
			身 体 機 能 作 業 療 法 学 I	2		
			身 体 機 能 作 業 療 法 学 II	2		
			身 体 機 能 作 業 療 法 学 III	1		
			身 体 機 能 作 業 療 法 学 演 習	1		
			精 神 機 能 作 業 療 法 学	2		
			精 神 機 能 作 業 療 法 学 演 習			
			老 年 期 作 業 療 法 学	2		
			老 年 期 作 業 療 法 学 演 習	1		
			発 達 と 作 業 療 法 学 演 習	1		
			高 次 脳 機 能 作 業 療 法 学 演 習	1		
			義 肢 装 具 学 演 習	1		
			臨 床 推 論 演 習	1		
作 業 療 法 セ ミ ナ ー I	1					
作 業 療 法 セ ミ ナ ー II	1					
地 域 作 業 療 法 学	地 域 作 業 療 法 学	2	1			
	地 域 作 業 療 法 学 演 習	1				
	住 環 境 整 備 ・ 福 祉 用 具 学 演 習					
	地 域 保 健 マ ネ ジ メ ン ト 論	1				
	就 労 支 援 と 作 業 療 法 演 習	1				
臨 床 実 習	見 学 実 習	1				
	地 域 包 括 ケ ア シ ス テ ム 実 習	2				
	評 価 学 実 習	4				
	臨 床 能 力 演 習	2				
	臨 床 実 習 I	8				
臨 床 実 習 II	8					
小 計 (44科 目)			69	9		
合 計 (67科 目)			107	13		

理学療法学科

		授 業 科 目	必 修 科 目 の 単 位 数	選 択 科 目 の 単 位 数	自 由 科 目 の 単 位 数	備 考			
専門教育科目	専門基礎科目	人 体 の 構 造 I 人 体 の 構 造 II 人 体 の 構 造 III 人 体 の 構 造 IV 人 体 の 構 造 演 習 人 体 の 機 能 I 人 体 の 機 能 II 人 体 の 機 能 演 習 運 動 学 運 動 学 演 達	2 2 2 2 1 2 2 1 2 1 2						
		疾 病 と 障 害 の 成 立 及 び 回 復 過 程 の 促 進	病 理 学 薬 理 学 救 急 処 置 科 神 経 内 科 整 形 外 科 小 児 科 精 神 医 学 臨 床 心 理 学 内 科 生 産 科 公 衆 衛 生 学 高 次 脳 機 能 障 害 学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				
		ハベリテーションの 理念	社 会 福 祉 学 概 論 チ ー ム 医 療 演 習 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 概 論	2 1 2					
		小 計 (25 科 目)		40	5				
		専門科目	基礎理学療法学	リ ス ク 管 理 論 科 学 的 根 拠 に 基 づ く 実 践 学 生 物 統 計 学 卒 業 業 務 研 究 I 卒 業 業 務 研 究 II 理 学 療 法 学 概 論	2 2 2 2 2 1	1 2 2 2 2 2			
				理 学 療 法 管 理 学	臨 床 教 育 と 管 理 学 理 学 療 法 教 育 学 と 生 涯 学 習 学 理 学 療 法 教 育 学	2 2 2	2 2 2		
				理 学 療 法 評 価 学	基 礎 理 学 療 法 評 価 学 専 門 理 学 療 法 評 価 学 関 節 運 動 測 定 演 習 感 覚 運 動 測 定 演 習 臨 床 推 論 演 習	1 2 2 2 1	1 1 1 1 1		
				小 計 (5 科 目)		10	10		
			専門科目		50	15			

		授 業 科 目	必 修 科 目 の 単 位 数	選 択 科 目 の 単 位 数	自 由 科 目 の 単 位 数	備 考	
専門教育科目	専門科目	理学療法治療学	運動療法学総論	2			
		日常生活活動分析学演習	1				
		運動器・スポーツ理学療法学Ⅰ	2				
		運動器・スポーツ理学療法学Ⅱ	1				
		神経機能理学療法学Ⅰ	2				
		神経機能理学療法学Ⅱ	1				
		内部障害理学療法学Ⅰ	2				
		内部障害理学療法学Ⅱ	1				
		発達と理学療法学Ⅰ	2				
		発達と理学療法学Ⅱ	1				
		物理療法Ⅰ	1				
		物理療法Ⅱ	2				
		義肢学演習	1				
		装具学演習	1				
		徒手理学療法学Ⅰ	1				
理学療法セミナーⅠ	1						
理学療法セミナーⅡ	2						
地域理学療法学	生活環境学	2	2				
	地域理学療法学演習	1					
臨床実習	見学実習	1					
	地域包括ケアシステム実習	2					
	評価学実習	4					
	臨床能力演習Ⅰ	2					
	臨床実習Ⅱ	8					
小計（40科目）			67	10			
合計（65科目）			107	15			

別表第6 心理学部専門科目及び単位数

臨床心理学科

		授 業 科 目	必修科目 の単位数	選択科目 の単位数	自由科目 の単位数	備考	
専 門 教 育 科 目	野 キ ャ リ ア 教 育 分	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 1	2				
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン 2	2				
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン 総 合 演 習 1		2			
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン 総 合 演 習 2		2			
			小計 (4科目)	4	4	0	
	ゼ ミ ・ 卒 業 研 究 分 野	心 理 学 基 礎 演 習 1	2				
		心 理 学 基 礎 演 習 2	2				
		心 理 学 特 殊 演 習 1	2				
		心 理 学 特 殊 演 習 2	2				
			卒 業 研 究	8			
			小計 (5科目)	16	0	0	
	研 究 法 分 野	心 理 学 統 計 法 1	2				
		心 理 学 研 究 法 2	2				
		心 理 学 実 験 1	2				
		心 理 学 統 計 法 2	2				
		心 理 学 実 験 2	2				
心 理 学 調 査 概 論			2				
心 理 学 発 展 研 究 演 習			2				
		心 理 学 コ ン ピ ュ ー タ 演 習	2				
		小計 (8科目)	12	4	0		
基 礎 心 理 学 分 野	心 理 学 へ の 招 待	2					
	知 覚 ・ 認 知 心 理 学	2					
	学 習 ・ 言 語 心 理 学	2					
	視 覚 心 理 学		2				
	神 経 ・ 生 理 心 理 学		2				
		小計 (5科目)	6	4	0		
分 野 教 育 ・ 発 達 心 理 学	発 達 心 理 学 1	2					
	発 達 心 理 学 2	2					
	教 育 ・ 学 校 心 理 学 1	2	2				
	教 育 ・ 学 校 心 理 学 2	2	2				
		小計 (4科目)	4	4	0		
臨 床 心 理 学 分 野	臨 床 心 理 学 概 論	2					
	臨 床 心 理 学 特 講	2	2				
	感 情 ・ 人 格 心 理 学	2					
	福 祉 心 理 学		2				
	司 法 ・ 犯 罪 心 理 学		2				
	公 認 心 理 師 の 職 責		1				
	心 理 的 ア セ ス メ ン ト 1		2				
	心 理 学 的 支 援 法 1		2				
	心 理 学 的 ア セ ス メ ン ト 2		2				
	心 理 学 的 支 援 法 2		2				
	心 理 演 習		2				
心 理 実 習		4					
		小計 (12科目)	4	21	0		
分 野 社 会 ・ 産 業 心 理 学	社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学 1	2					
	社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学 2	2					
	産 業 ・ 組 織 心 理 学	2	2				
	人 間 関 係 論		2				
		小計 (4科目)	4	4	0		

		授 業 科 目	必 修 科 目 の 単 位 数	選 択 科 目 の 単 位 数	自 由 科 目 の 単 位 数	備 考
	健康・医療分野	健 康 ・ 医 療 心 理 学		2		
		人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病		2		
		精 神 疾 患 と そ の 治 療		2		
		障 害 者 ・ 障 害 児 心 理 学		2		
	小計 (4科目)		0	8	0	
関連分野	関 係 行 政 論		2			
	社 会 福 祉 学 1		2			
	社 会 福 祉 学 2		2			
	社 会 福 祉 学 特 講		2			
小計 (4科目)		0	8	0		
合計 (50科目)			50	57	0	

別表第7 国際看護学部専門科目及び単位数

看護学科

	授 業 科 目	必 修 科 目 の 単 位 数	選 択 科 目 の 単 位 数	自 由 選 択 科 目 の 単 位 数	備 考	
専門基礎分野	人体の構造と機能 I	2				
	人体の構造と機能 II	2				
	人体の構造と機能 III	2				
	人体の構造と機能 IV	2				
	こころとからだの探求	1				
	薬物と薬物療法	2				
	疾病と治療 I	1				
	疾病と治療 II	2				
	疾病と治療 III	2				
	公衆衛生学	2				
	医療統計学演習	1				
	健康福祉社会とグローバル化	2				
	地域における健康増進	1				
小計(13科目)		22	0	0		
専門教育科目	基礎看護学	看護学原論	2			
		健康教育と看護倫理	2			
		看護と人間関係	2			
		看護の基礎技術	2			
		基礎看護技術 I	1			
		基礎看護技術 II	1			
		フィジカルアセスメント	1			
		基礎看護学実習 I	1			
	基礎看護学実習 II	2				
	小計(9科目)		14	0	0	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護学概論	2			
		地域看護と地域包括ケアシステム	2			
		地域・在宅看護活動/援助論	1			
地域・在宅看護学演習		1				
地域を学ぶ		1				
地域・在宅看護学実習		2				
小計(6科目)		9				
成人看護学	成人看護学概論 I (急性期)	2				
	成人看護学概論 II (慢性期)	2				
	成人急性期の看護方法	1				
	成人慢性期の看護方法	1				
	成人看護学実習 I	2				
	成人看護学実習 II	2				
	成人看護学実習(地域連携・多職種連携)	1				
小計(7科目)		11	0	0		
老年看護学	老年看護学概論	2				
	老年看護活動/援助論	1				
	老年看護学演習	1				
	老年看護学実習 I	2				
	老年看護学実習 II	2				
小計(5科目)		8	0	0		
小児看護学	小児看護学概論	1				
	小児看護活動/援助論	1				
	小児看護学演習	2				
	小児看護学実習	2				
小計(4科目)		6	0	0		

専門教育科目	母性看護学	母性看護学概論	1			
		母性看護活動／援助論	1			
		母性看護学演習	2			
		母性看護学実習	2			
		小計(4科目)	6	0	0	
	精神看護学	精神看護学概論	1			
		精神看護活動／援助論	1			
		精神看護学演習	2			
		精神看護学実習	2			
		小計(4科目)	6	0	0	
	国際看護学	医療英語	1			
		国際看護学	2			
		英語診療演習	1			
		国際看護実習Ⅰ	1		1	
国際看護実習Ⅱ		1				
小計(5科目)	5	0	1			
統合分野	看護の統合と実践	看護の統合と実践	1			
		看護研究の基礎	2			
		チーム医療と医療安全	1			
		看護マネジメント	1			
		遠隔看護と看護情報	1			
		看護とリハビリテーション	1			
		看護学総合講義	4			
		応用看護演習OSCE／IBT	1			
		看護学統合実習	2			
小計(9科目)	14	0	0			
合計(66科目)		101	0	1		

別表第8 学 費

入 学 金	(薬 学 部)	400,000 円
	(看 護 学 部)	300,000 円
	(健康医療科学部)	300,000 円
	(心 理 学 部)	200,000 円
	(国 際 看 護 学 部)	300,000 円

薬学部

費 目	1 年 次	2 年 次	3 年 次
授 業 料	1,300,000 円	1,300,000 円	1,300,000 円
施設設備費	500,000 円	500,000 円	500,000 円
実務実習費	0円	0円	0円

費 目	4 年 次	5 年 次	6 年 次
授 業 料	1,300,000 円	1,300,000 円	1,300,000 円
施設設備費	500,000 円	500,000 円	500,000 円
実務実習費	0円	400,000円	0円

看護学部

費目	1年次	2年次	3年次	4年次
授業料	1,100,000円	1,100,000円	1,100,000円	1,100,000円
施設設備費	400,000円	400,000円	400,000円	400,000円

健康医療科学部

費目	1年次	2年次	3年次	4年次
授業料	1,200,000円	1,200,000円	1,200,000円	1,200,000円
施設設備費	450,000円	450,000円	450,000円	450,000円

心理学部

費目	1年次	2年次	3年次	4年次
授業料	750,000円	750,000円	750,000円	750,000円
施設設備費	200,000円	200,000円	200,000円	200,000円

国際看護学部

費目	1年次	2年次	3年次	4年次
授業料	1,100,000円	1,100,000円	1,100,000円	1,100,000円
施設設備費	400,000円	400,000円	400,000円	400,000円

在籍料（休学者）

学部	半期	年間
薬学部	90,000円	180,000円
看護学部	75,000円	150,000円
健康医療科学部	80,000円	160,000円
心理学部	60,000円	120,000円
国際看護学部	75,000円	150,000円

聴講生・科目等履修生・研究生・国家試験対策生

聴講生	登録料	10,000円
	聴講料	1単位につき 6,250円
科目等履修生	登録料	10,000円
	聴講料	1単位につき 10,000円 *本学卒業生は上記の半額
研究生	研究指導料	薬学部 300,000円
		看護学部 300,000円
		健康医療科学部 200,000円
		心理学部 200,000円
		国際看護学部 300,000円
国家試験対策生	指導料	200,000円 (前期 100,000円、後期 100,000円)

留学生別科

入学金	100,000円
授業料（半期）	285,000円

別表第9 進級基準

薬学部薬学科

進級判定	進級基準	備考
4年生まで（各学年）	(1) 当該学年で修得すべき必修科目のうち、不合格となった科目が3科目以内であること。 (2) 実験・実習科目に、不合格となった科目がないこと。	
4年生から5年生	(1) 4年生までの必修科目141単位をすべて修得していること。	
5年生から6年生	(1) 実務実習(薬局)・実務実習(病院)に合格していること。ただし特別な理由により実務実習(薬局)または実務実習(病院)をできなかった場合を除く。 (2) 5年生までの必修科目150単位をすべて修得していること。	

看護学部看護学科

進級判定	進級基準	備考
3年生まで（各学年）	(1) 当該学年で修得すべき必修科目のうち、不合格となった科目が3科目以内であること。 (2) 実習科目に、不合格となった科目がないこと。 (3) 同一学年における在学年数が2年以内であること。	
3年生から4年生	(1) 当該学年で修得すべき必修科目のうち、不合格となった科目が3科目以内であること。 (2) 臨地実習科目に、合格していること。ただし特別な理由により臨地実習をできなかった場合を除く。 (3) 同一学年における在学年数が2年以内であること。	

健康医療科学部作業療法学科・理学療法学科

進級判定	進級基準	備考
3年生まで（各学年）	(1) 当該学年で修得すべき専門教育科目の必修科目のうち、不合格となった科目がないこと。 (2) 実習科目に、不合格となった科目がないこと。 (3) 同一学年における在学年数が2年以内であること。	
3年生から4年生	(1) 当該学年で修得すべき専門教育科目の必修科目のうち、不合格となった科目がないこと。 (2) 臨床実習科目に、合格していること。ただし不可抗力な事象（天変地異、事故、急病等）により臨床実習をできなかった場合を除く。 (3) 同一学年における在学年数が2年以内であること。	

心理学部臨床心理学科

進級判定	進級基準	備考
2年生から3年生	(1) 2年以上在学していること。 (2) 全学共通教育科目、専門教育科目あわせて50単位以上の単位数を修得していること。 (3) 「心理学基礎演習1」及び「心理学基礎演習2」の単位を修得していること。 (4) 2年生の修了までに、必要な学費を全額納入していること。	
3年生から4年生	(1) 3年以上在学していること。 (2) 全学共通教育科目、専門教育科目あわせて90単位以上の単位数を修得していること。 (3) 「心理学特殊演習1」及び「心理学特殊演習2」の単位を修得していること。 (4) 3年生の修了までに、必要な学費を全額納入していること。	

国際看護学部看護学科

進級判定	進級基準	備考
3年生まで（各学年）	(1) 当該学年で修得すべき必修科目のうち、不合格となった科目が3科目以内であること。 (2) 実習科目に、不合格となった科目がないこと。	
3年生から4年生	(1) 当該学年で修得すべき必修科目のうち、不合格となった科目が3科目以内であること。 (2) 臨地実習科目に、合格していること。ただし特別な理由により臨地実習をできなかった場合を除く。	

別表第10 追試験として認められる事由、必要書類、追試験料及び評価基準

事由	必要書類	追試験料	評価基準
1. 感染症※	医師の診断書	なし	100点満点
2. 実習等（教育実習，介護体験，福祉実習，インターンシップ等）	担当部署の発行する書類		
3. 就職試験	就職試験案内等（受験票）		
4. 忌引（第一親等～第三親等）	死亡診断書の写等		
5. 交通機関の遅延	遅延証明書		
6. 交通事故	事故証明書		
7. 裁判員裁判	公的証明書		
8. その他の公的な事由	公的証明書		
9. その他の私的な事由	学生の所属する学部 of 学部長押印のある理由書	1,000円	90点満点

※感染症は、学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症とする。

別表第11 再試験として認められる対象者、条件、再試験料及び評価基準
薬学部薬学科

対象者	条件	再試験料	評価基準	備考
全学年	(1) 大学が定める期限までに必要な学費を全額納入している。 (2) 定期試験等を受験し、必修科目が不合格となっている。 (科目数の制限なし) (3) 当該科目の授業の出席が3分の2を超えている。	1,000円	60点満点	

看護学部看護学科

対象者	条件	再試験料	評価基準	備考
全学年	(1) 大学が定める期限までに必要な学費を全額納入している。 (2) 定期試験等を受験し、必修科目が不合格となっている。 (科目数の制限なし) (3) 当該科目の授業の出席が3分の2を超えている。 (4) 別表第4の保健師養成課程科目の定期試験等を受験し不合格となっている（保健師養成課程履修者のみ、科目数の制限なし）。	1,000円	60点満点	

健康医療科学部作業療法学科・理学療法学科

対象者	条件	再試験料	評価基準	備考
全学年	(1) 大学が定める期限までに必要な学費を全額納入している。 (2) 必修科目が不合格となっている。（科目数の制限なし） (3) 当該科目の授業の出席が3分の2を超えている。	1,000円	60点満点	

心理学部臨床心理学科

対象者	条件	再試験料	評価基準	備考
全学年	(1) 大学が定める期限までに必要な学費を全額納入している。 (2) 定期試験等を受験し、必修科目が不合格となっている。 (科目数の制限なし) (3) 当該科目の授業の出席が3分の2を超えている。	1,000円	60点満点	

4年生	<ul style="list-style-type: none"> (1) 大学が定める期限までに必要な学費を全学納入している。 (2) 後期については、定期試験等を受験し、卒業要件科目のうち必修科目と選択科目あわせて2科目以内が不合格となっている。 (3) 当該科目の授業の出席が3分の2を超えている。 			
-----	--	--	--	--

国際看護学部看護学科

対象者	条件	再試験料	評価基準	備考
全学年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 大学が定める期限までに必要な学費を全額納入している。 (2) 定期試験等を受験し、必修科目が不合格となっている。 (科目数の制限なし) (3) 当該科目の授業の出席が3分の2を超えている。 	1,000円	60点満点	